「一貫教育委員会第一部会 シンポジウム報告」が開催されました

実施報告

日時: 2009年11月16日(月)12:00 ～ 12:40

場所: チャレンジセンタープロジェクト会議室(8号館3階)

司会: 岡田　工(チャレンジセンター准教授)

内容: １．シンポジウム概要およびパネルディスカッションの報告
（園田由紀子　チャレンジセンター講師）
２．中学生の保育体験プログラムに関する報告(岡田　工　チャレンジセンター准教授)
３．質疑

シンポジウム概要およびパネルディスカッションの報告

園田由紀子(チャレンジセンター講師)

2009年7月に行われた東海大学皆既日食観測プロジェクトについて、飯塚浩教諭（付属翔洋高校）から報告があった。また、パネルディスカッションでは6名のパネリストが「感動体験・成功体験の共有と世代間交流」というテーマについて議論した。パネリストとして参加した園田由紀子講師（チャレンジセンター）は、サイエンスコミュニケーターの取り組みについて紹介し、実践型学習の事例および効果について論じた。感動体験をすることの意義、そしてその体験を伝えることの重要性を強調するとともに、中高大の連携によって世代間交流が実現したこと、そして参加学生が能動的な学習姿勢を身に付けたことが報告された。

中学生の保育体験プログラムに関する報告

岡田　工(チャレンジセンター准教授)

付属相模高等学校中等部の保育体験プログラムについて報告した。「中等部保育実習」として、中学2年生が保育士の仕事の1日体験を行った模様が紹介された。今年は、建学の歌を園児と一緒に歌うことや、紙芝居・マジックなどを実演してみせる経験をした。中学生と幼稚園児という世代間交流体験を通じて、あいさつができる・笑顔が増える・視線が低くなる・思いやる気持ちがつく・コミュニケーション能力がつくなどの効果が見られたことが報告された。

質疑応答

Q. 保育体験プログラムでは、園児たちにどのような効果があったのか？
A. 年上の生徒との触れ合いを通じて、一生懸命な姿にあこがれを持ったり、見習ったりしていると思う。一部の園児と生徒のあいだには、体験後も手紙のやりとりなどが行われ、世代を超えた絆が生まれたと考えられる。

Q. 教員間の交流は？
A. 現状では、大学教員と小中高教員の間の交流が不足している。今後の発展が期待される。

Q. サイエンスコミュニケーターは今後どのような活動をするのか？
A. 理科教育をテーマとした活動を行っていく予定である。付属校と連携して教育機会を作り、相互効果を生み出す方策を模索している。